

(4) 子育て・教育について

問7 あなたは、子どもの育て方について、どのように思いますか。(○は1つ)

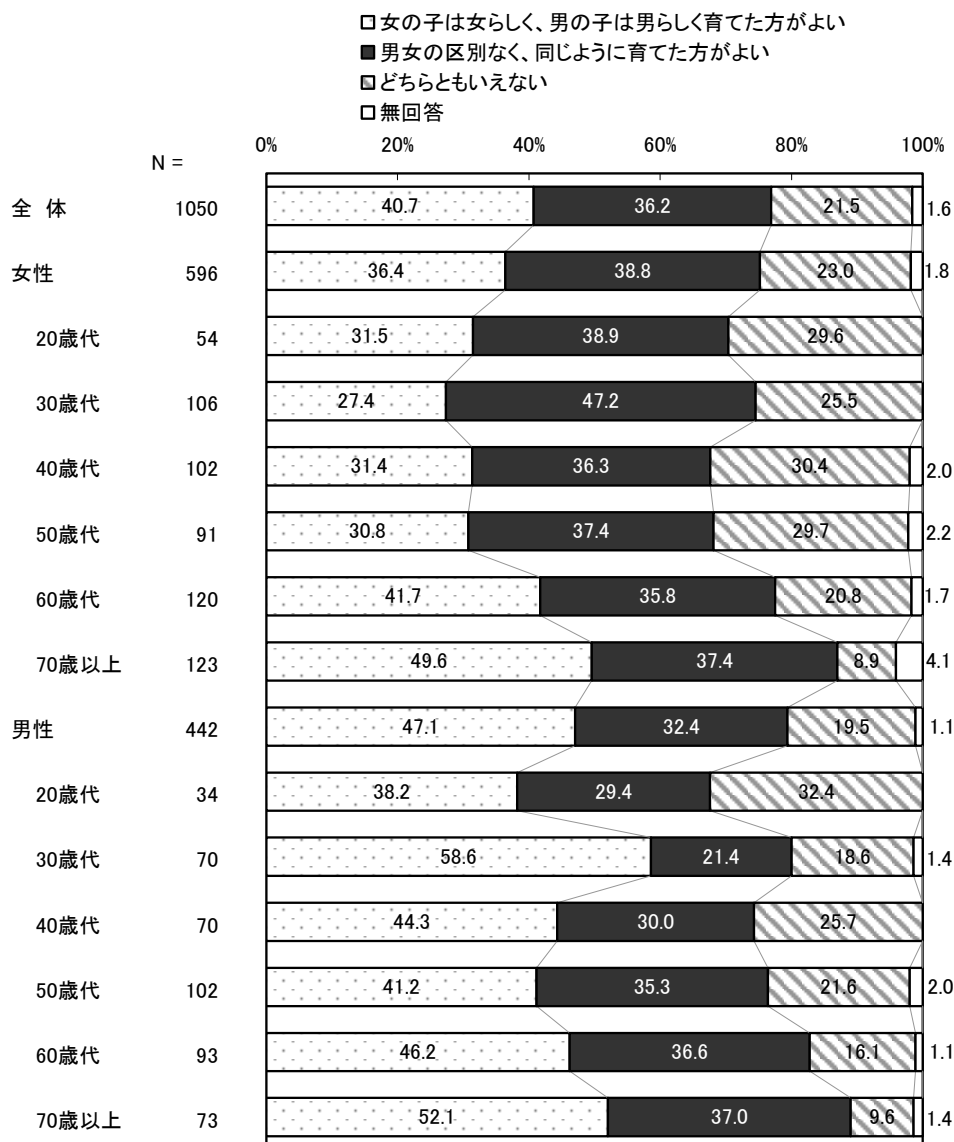
「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」の割合が最も高く 40.7%となっており、次いで「男女の区別なく、同じように育てた方がよい」の割合が 36.2%となっています。

男女別で見ると、男性に比べ女性で「男女の区別なく、同じように育てた方がよい」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」の割合が高くなっています。

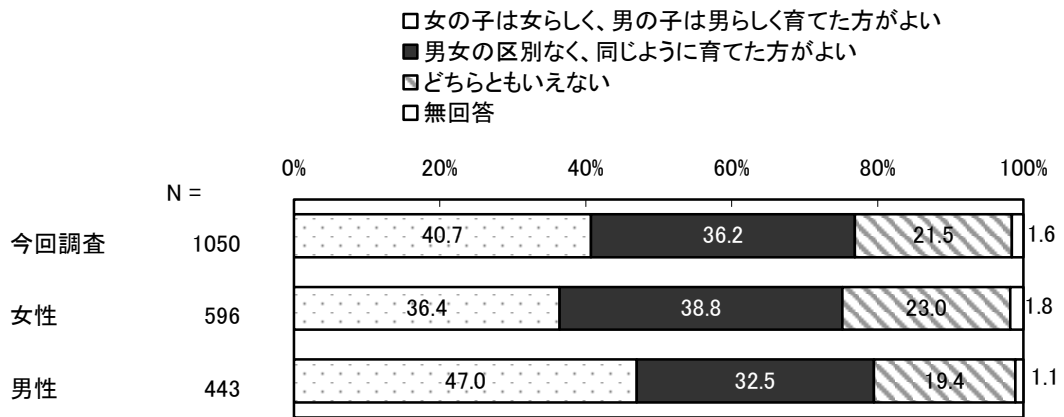
年齢別で見ると、他の年代に比べ、女性の 30 歳代で「男女の区別なく、同じように育てた方がよい」の割合が高く、60 歳代以上で「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の 20 歳代で「どちらともいえない」の割合が高く、30 歳代、60 歳代以上で「女の子は女らしく、男の子は男らしく育てた方がよい」の割合が高くなっています。

平成 13 年度調査結果と比較すると、全体では、大きな差異はみられません。

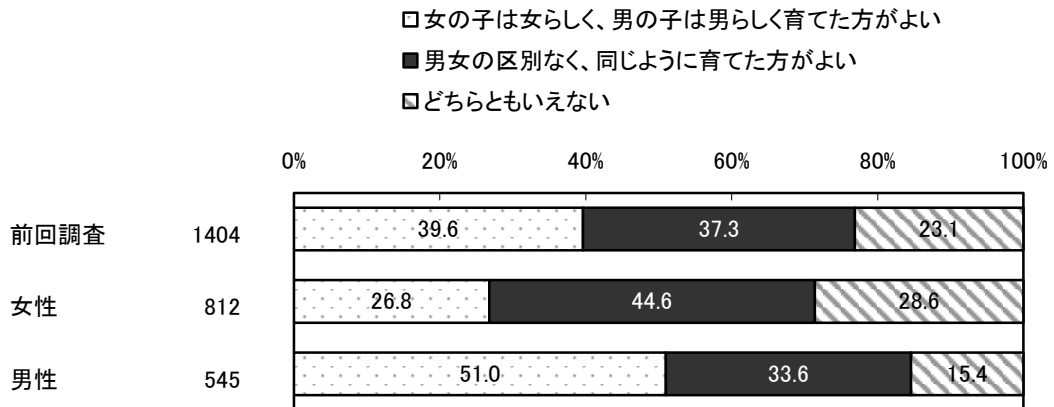
図表 49 男女別年齢別子どもの育て方について



図表 50 子どもの育て方について(平成 20 年度調査)



図表 51 子どもの育て方について(平成 13 年度調査)



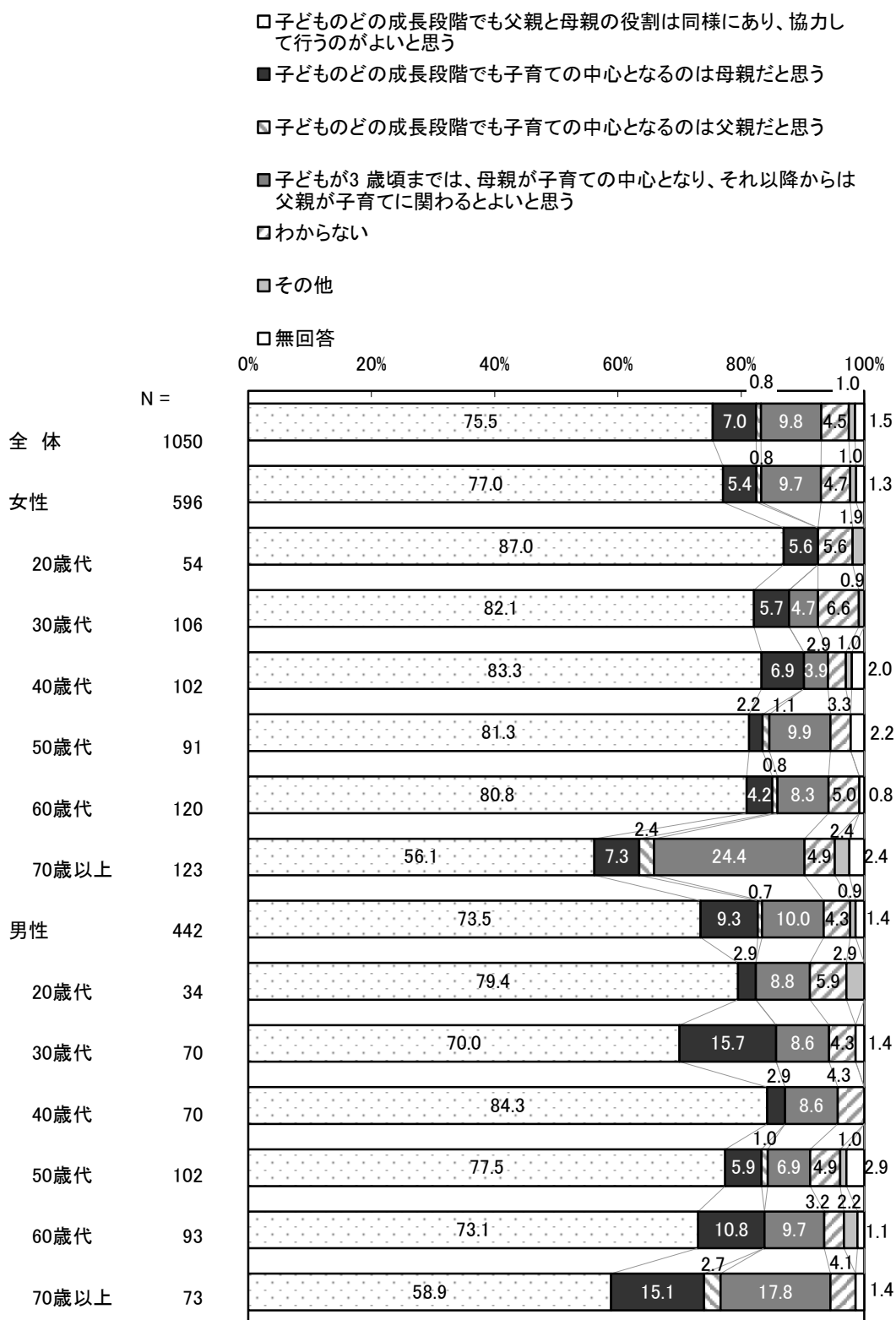
問8 あなたは、子育てにおける父親と母親の役割について、どのように思いますか。
(○は1つ)

「子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよいと思う」の割合が最も高く75.5%となっており、次いで「子どもが3歳頃までは、母親が子育ての中心となり、それ以降からは父親が子育てに関わるとよいと思う」の割合が9.8%となっています。

男女別で見ると、性別による大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、他の年代に比べ、男女とも70歳以上で「子どものどの成長段階でも父親と母親の役割は同様にあり、協力して行うのがよいと思う」の割合が低く、「子どもが3歳頃までは、母親が子育ての中心となり、それ以降からは父親が子育てに関わるとよいと思う」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の30歳代と70歳代以上で「子どものどの成長段階でも子育ての中心となるのは母親だと思う」の割合が高くなっています。

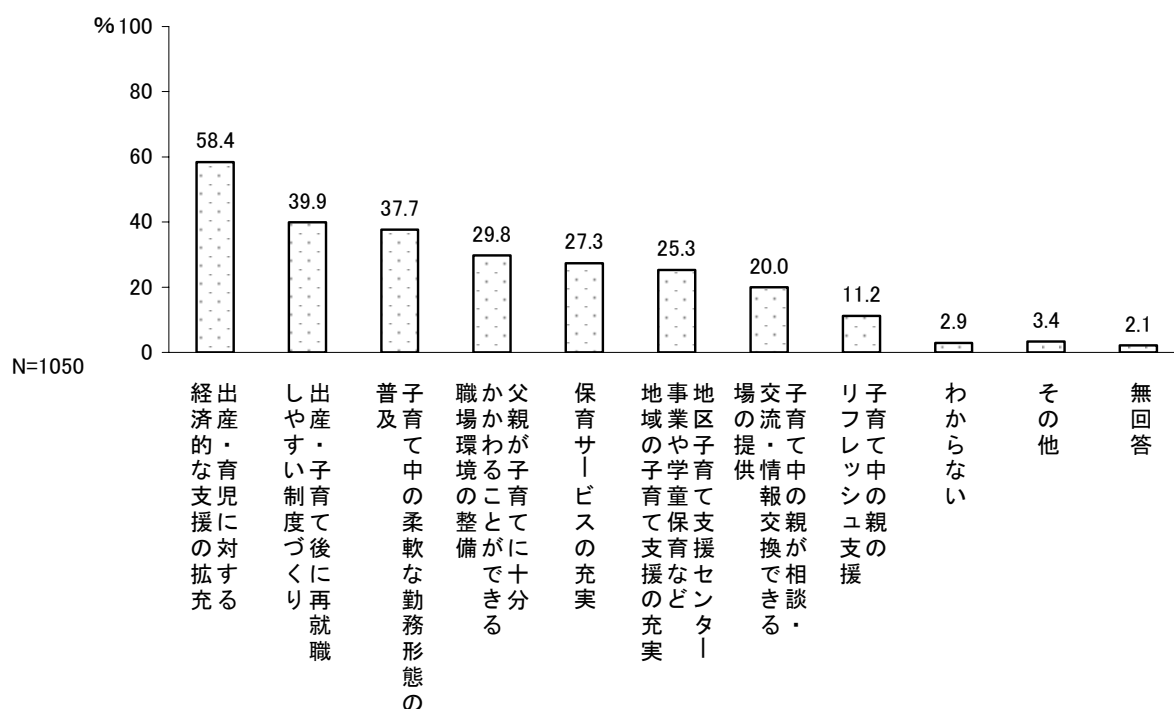
図表 52 男女別年齢別子育てにおける父親と母親の役割について



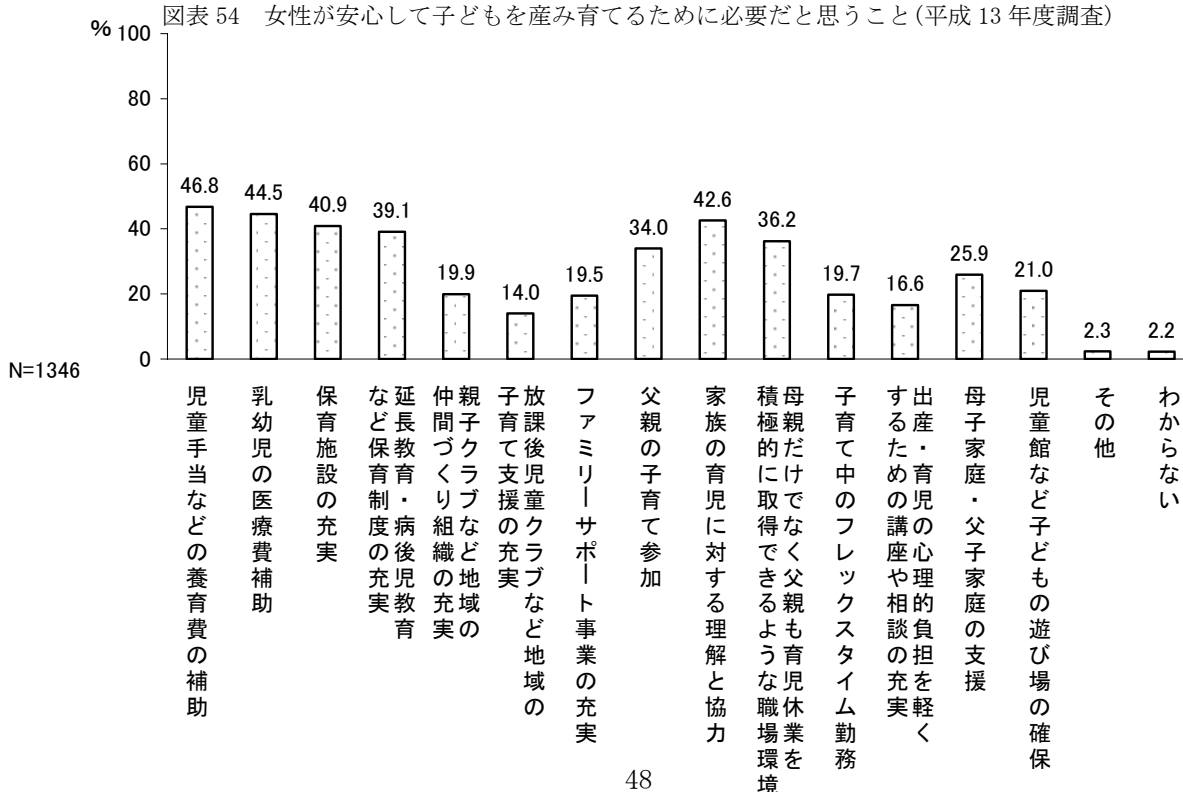
問9 あなたは、女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

「出産・育児に対する経済的な支援の拡充」の割合が最も高く 58.4%となっており、次いで「出産・子育て後に再就職しやすい制度づくり」と「子育て中の柔軟な勤務形態の普及」の割合が約4割となっています。

図表 53 女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うこと(平成20年度調査)



図表 54 女性が安心して子どもを産み育てるために必要だと思うこと(平成13年度調査)



問 10 あなたは、男性がより育児に参加していくために必要だと思うことは何ですか。
(○は3つまで)

「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が最も高く 57.9%となっており、次いで「男性が育児休業制度を利用しやすくなること」と「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」の割合がともに約4割となっています。

男女別でみると、男性に比べ女性で「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」と「家族の間で育児について十分に話し合うこと」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「男性が育児休業制度を利用しやすくなること」の割合が高くなっています。

年齢別にみると、他の年代に比べ、女性の20～40歳代で「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」と「男性自身が育児に取り組む意識をもつこと」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の20歳代で「男性が育児休業制度を利用しやすくなること」、30歳代、40歳代で「男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること」、50歳代で「労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと」の割合が高くなっています。

図表 55 男女別年齢別男性の育児参加に必要だと思うこと

単位：%

	有効回答数(件)	男性が育児休業制度を利用しやすくなること	労働時間の短縮や在宅勤務、フレックスタイムの導入などがすすむこと	男性のための育児講座を充実すること	男性自身が育児に取り組む意識をもつこと	子どもの病気や急な残業に対応できる保育施設・サービスが整備されること	家族の間で育児について十分に話し合うこと	男性の育児参加を妨げるような社会通念が変わること	わからない	その他	無回答
全 体	1050	39.7	34.7	10.8	57.9	29.6	30.2	40.8	2.9	1.5	2.4
女性	596	35.6	34.9	10.6	61.6	31.7	32.6	42.6	2.9	0.8	2.0
20歳代	54	42.6	42.6	9.3	75.9	20.4	31.5	46.3	3.7	-	-
30歳代	106	32.1	39.6	13.2	74.5	34.9	21.7	49.1	1.9	-	0.9
40歳代	102	39.2	43.1	4.9	69.6	27.5	27.5	46.1	-	2.9	-
50歳代	91	41.8	34.1	7.7	54.9	30.8	30.8	44.0	2.2	2.2	2.2
60歳代	120	33.3	33.3	14.2	47.5	36.7	37.5	40.8	2.5	-	3.3
70歳以上	123	30.1	22.8	12.2	56.1	33.3	43.1	33.3	6.5	-	4.1
男性	442	45.2	34.6	11.1	53.6	26.7	27.4	38.0	2.9	2.0	2.5
20歳代	34	61.8	38.2	11.8	52.9	23.5	20.6	32.4	2.9	2.9	-
30歳代	70	41.4	37.1	12.9	52.9	20.0	28.6	44.3	1.4	2.9	-
40歳代	70	42.9	34.3	12.9	61.4	21.4	30.0	45.7	1.4	2.9	-
50歳代	102	47.1	43.1	8.8	51.0	28.4	25.5	35.3	2.9	2.0	2.9
60歳代	93	40.9	36.6	9.7	48.4	33.3	26.9	34.4	4.3	1.1	4.3
70歳以上	73	46.6	16.4	12.3	57.5	28.8	30.1	35.6	4.1	1.4	5.5

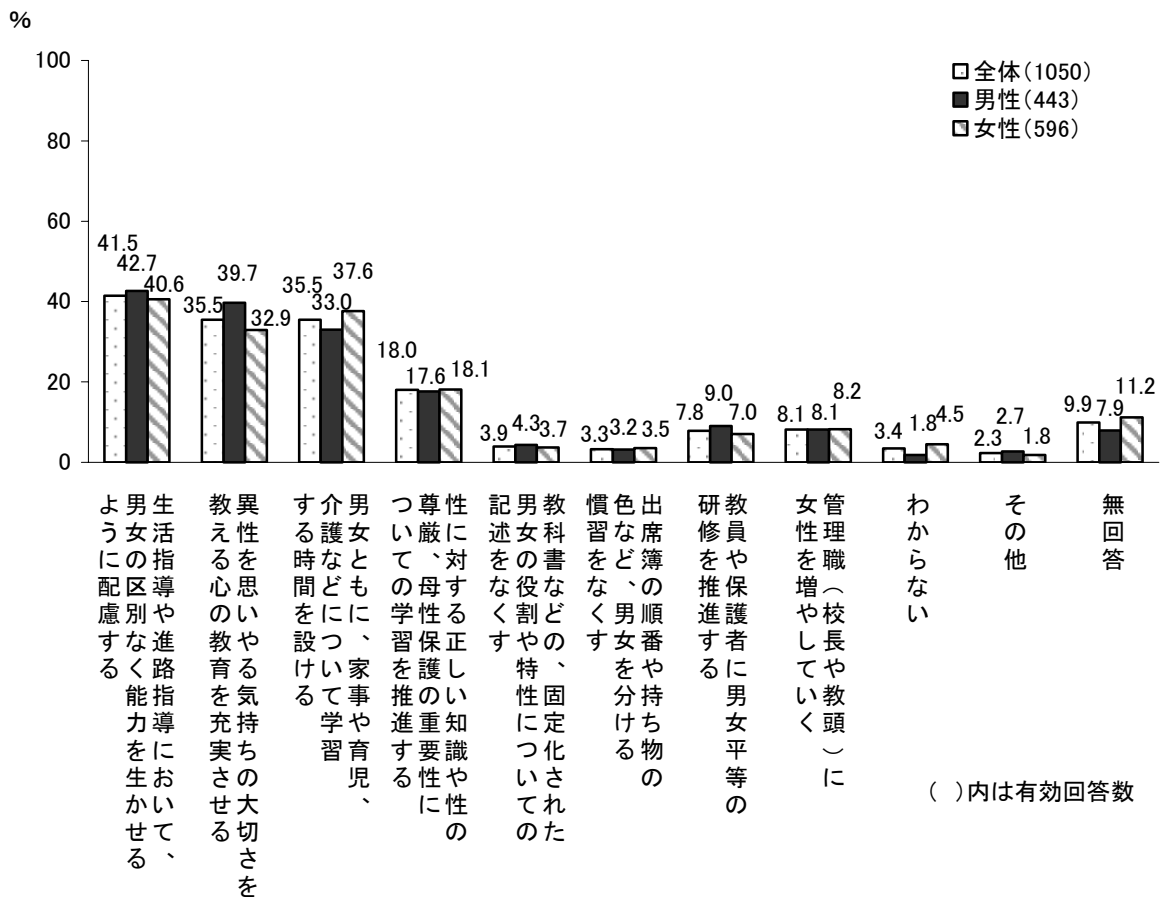
問 11 あなたは、男女平等の意識を育てるために、学校を中心とした教育の場ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(〇は2つまで)

「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」の割合が最も高く 41.5%となっており、次いで「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」と「男女ともに、家事や育児、介護などについて学習する時間を設ける」の割合がともに 35.5%となっています。

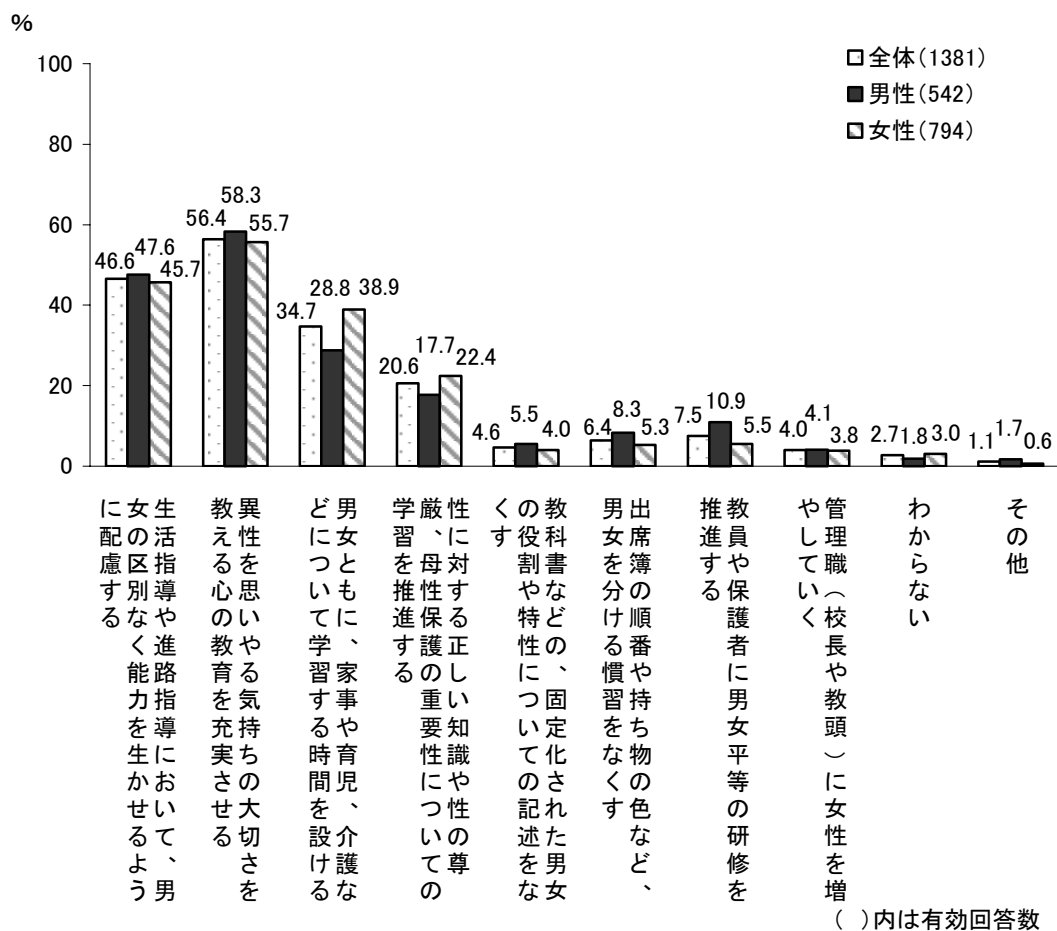
男女別でみると、女性に比べ男性で「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が高くなっています。

平成 13 年度調査結果と比較すると、全体では、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮する」と「異性を思いやる気持ちの大切さを教える心の教育を充実させる」の割合が低くなっています。

図表 56 男女別男女平等の意識育成に、教育の場で力を入れるべきだと思うこと (平成 20 年度調査)



図表 57 男女別男女平等の意識育成に、教育の場で力を入れるべきだと思うこと（平成 13 年度調査）



(5) 職業について

問 12 あなたは、女性が職業（仕事）を持つことについて、どのように思いますか。
(○は1つ)

「子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つ方がよい」の割合が最も高く 50.7%となっており、次いで「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」の割合が 22.2%となっています。

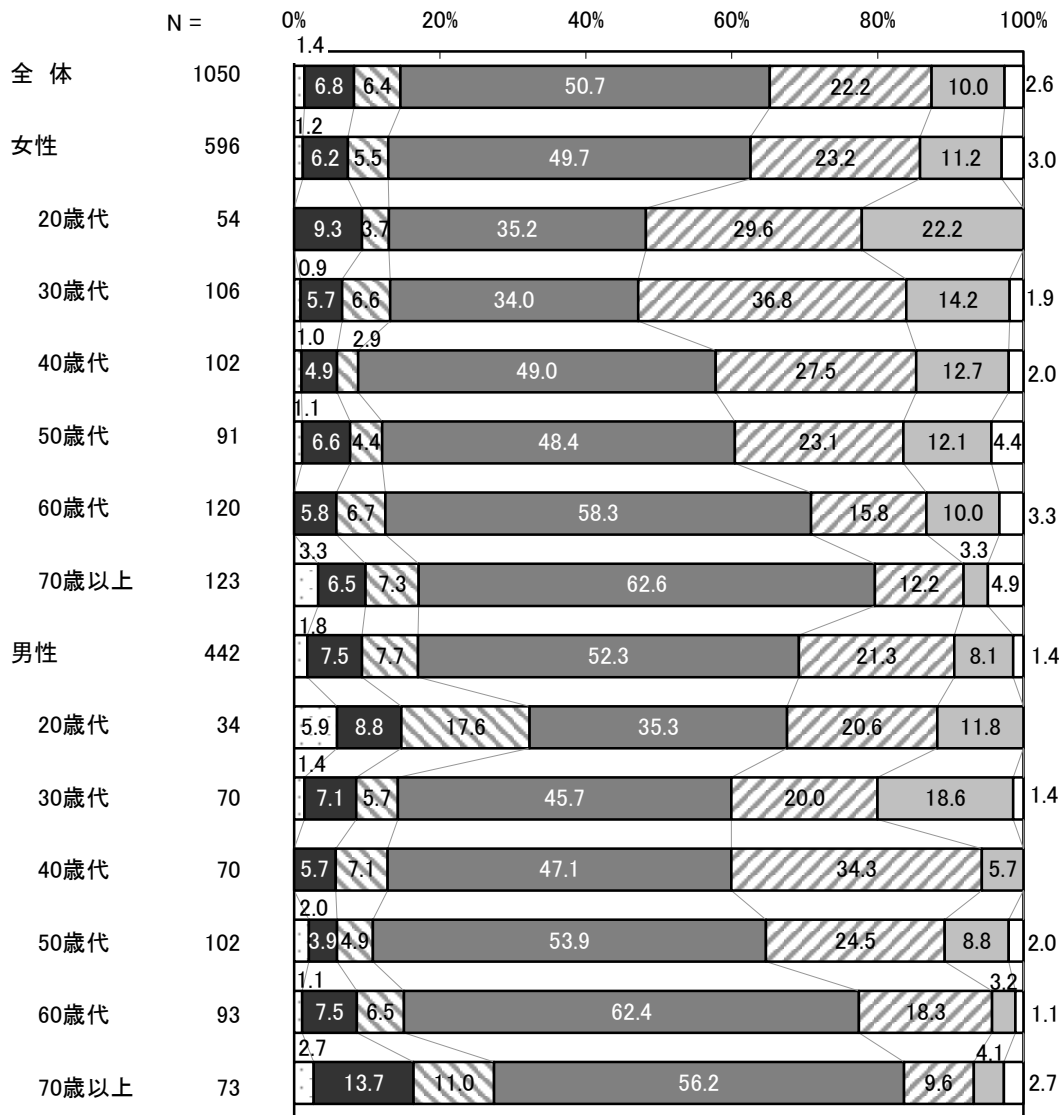
男女別で見ると、性別による大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、女性で年齢が上がるにつれ、「子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つ方がよい」の割合が高く、「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」の割合が低くなっています。また、他の年代と比べ、男性の 40 歳代で「子どもができて、ずっと職業（仕事）を続ける方がよい」の割合が高くなっています。

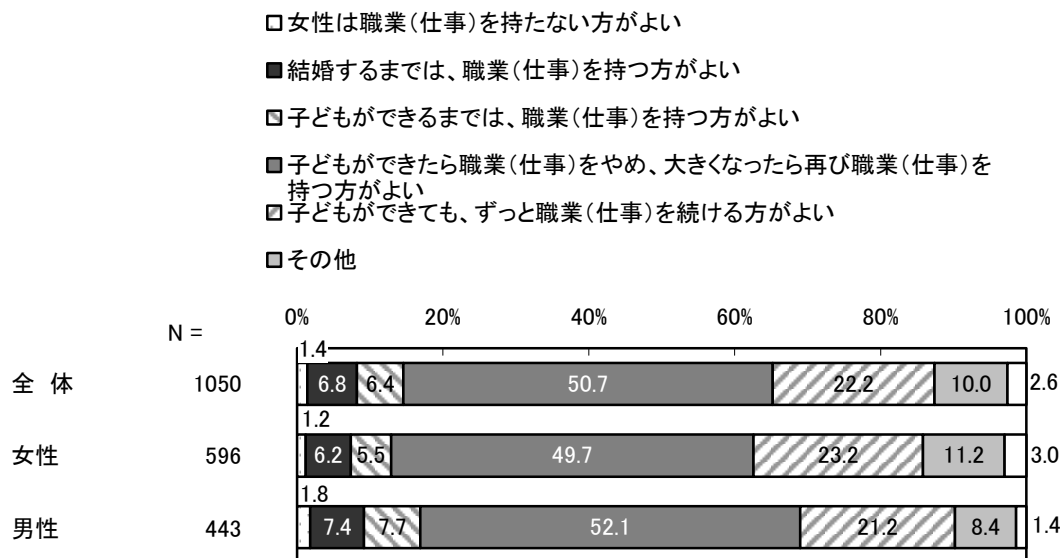
平成 13 年度調査結果と比較すると、全体では、「子どもができたら職業（仕事）をやめ、大きくなったら再び職業（仕事）を持つ方がよい」の割合が低くなっています。

図表 58 男女別年齢別女性が職業(仕事)を持つことについて

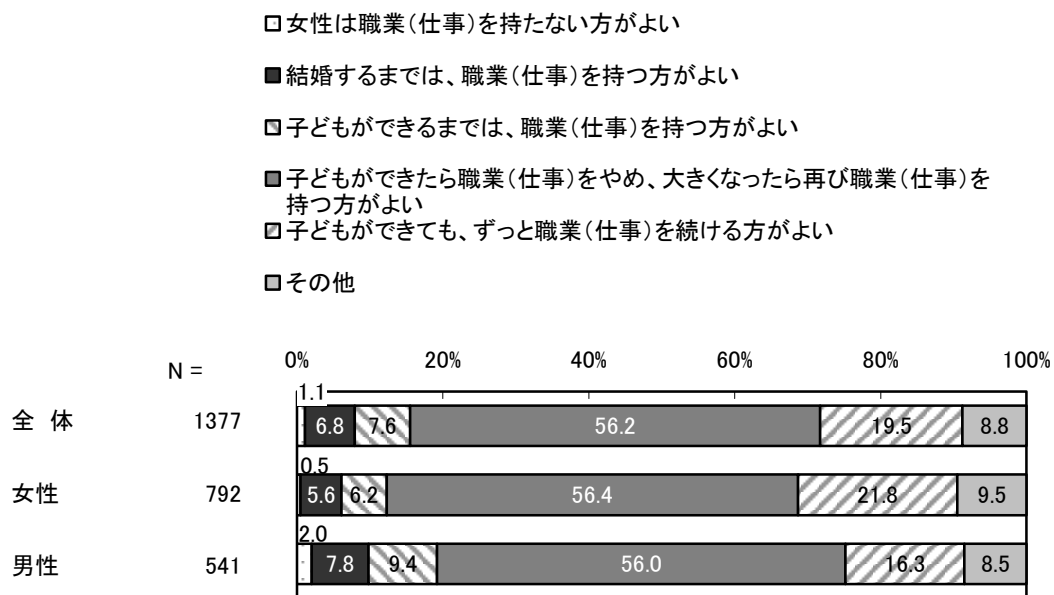
- 女性は職業(仕事)を持たない方がよい
- 結婚するまでは、職業(仕事)を持つ方がよい
- 子どもができるまでは、職業(仕事)を持つ方がよい
- 子どもができたなら職業(仕事)をやめ、大きくなったら再び職業(仕事)を持つ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業(仕事)を続ける方がよい
- その他
- 無回答



図表 59 男女別女性が職業(仕事)を持つことについて(平成 20 年度調査)



図表 60 男女別女性が職業(仕事)を持つことについて(平成 13 年度調査)



問 13 あなたは、職業を持つ場合に何が支障になると思いますか。(〇は3つまで)

「子育てや家事の負担が大きい」の割合が最も高く 40.9%となっており、次いで「休暇が取りにくい」の割合が 36.0%となっています。

男女別で見ると、男性に比べ女性で「子育てや家事の負担が大きい」の割合が高くなっています。女性に比べ男性で「労働時間が長い」と「仕事について上司や同僚の認識が低い」ため、その能力が正当に評価されない」の割合が高くなっています。

年齢別で見ると、他の年代に比べ、男女とも 20 歳代で「昇進昇格が遅い、期待できない」、30 歳代で「休暇が取りにくい」、40 歳代で「賃金が低い」、60 歳代以上で「教育訓練機会が少ない」ために、能力の向上が図りにくい」の割合が高くなっています。他の年代に比べ、女性の 30～50 歳代で「子育てや家事の負担が大きい」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の 30 歳代で「子育てや家事の負担が大きい」の割合が高くなっています。

図表 61 男女別年齢別職業を持つ場合に支障になること

単位：%

	有効回答数(件)	募集採用の機会が 少ない	賃金が低い	労働時間が長い	休暇が取りにくい	昇進昇格が遅い、 期待できない	管理職に登用され ない	中高年の従業員に 対して、退職を促 すような圧力があ る
全 体	1050	25.1	30.3	26.4	36.0	8.0	2.2	11.3
女性	596	26.2	28.5	23.8	37.4	7.4	2.0	11.4
20歳代	54	38.9	29.6	27.8	48.1	14.8	1.9	1.9
30歳代	106	22.6	26.4	28.3	52.8	6.6	1.9	2.8
40歳代	102	38.2	41.2	25.5	34.3	5.9	2.0	11.8
50歳代	91	20.9	27.5	20.9	38.5	9.9	1.1	11.0
60歳代	120	26.7	31.7	25.0	33.3	5.0	-	16.7
70歳以上	123	17.1	17.1	17.9	25.2	6.5	4.9	17.9
男性	442	23.5	32.6	29.9	33.9	9.0	2.5	11.1
20歳代	34	23.5	32.4	32.4	32.4	23.5	-	2.9
30歳代	70	15.7	35.7	28.6	35.7	15.7	1.4	1.4
40歳代	70	28.6	42.9	22.9	38.6	5.7	1.4	8.6
50歳代	102	24.5	33.3	35.3	36.3	3.9	3.9	15.7
60歳代	93	26.9	29.0	31.2	33.3	6.5	2.2	12.9
70歳以上	73	20.5	23.3	27.4	26.0	9.6	4.1	17.8

	教育訓練機会が少 ないために、能力の 向上が図りにくい	仕事について上司や 同僚の認識が低いた め、その能力が正当 に評価されない	結婚や出産時に退 職する慣例や圧力 がある	補助的な業務や雑 用(お茶くみ等)が 多い	子育てや家事の負 担が大きい	特に不満は ない	その他	無回 答
全 体	8.0	16.5	10.0	3.4	40.9	4.5	5.2	4.9
女性	7.9	13.9	11.1	4.0	49.3	2.7	5.5	4.9
20歳代	3.7	11.1	13.0	3.7	35.2	5.6	13.0	-
30歳代	7.5	10.4	15.1	4.7	58.5	3.8	2.8	0.9
40歳代	5.9	10.8	10.8	2.9	54.9	1.0	5.9	-
50歳代	5.5	17.6	12.1	2.2	57.1	1.1	4.4	4.4
60歳代	9.2	13.3	6.7	5.0	43.3	4.2	5.8	4.2
70歳以上	12.2	18.7	10.6	4.9	43.1	1.6	4.9	15.4
男性	8.4	19.7	8.6	2.7	29.6	6.8	5.0	4.5
20歳代	8.8	11.8	5.9	-	20.6	11.8	8.8	-
30歳代	5.7	20.0	8.6	2.9	41.4	7.1	4.3	1.4
40歳代	7.1	12.9	4.3	1.4	21.4	10.0	5.7	4.3
50歳代	4.9	23.5	9.8	4.9	31.4	3.9	4.9	4.9
60歳代	10.8	20.4	5.4	3.2	30.1	7.5	2.2	3.2
70歳以上	13.7	23.3	16.4	1.4	27.4	4.1	6.8	11.0

問 14 あなたは、安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が最も高く 44.1%となっており、次いで「家族がそれぞれの仕事について理解し協力する」の割合が 28.4%となっています。

男女別でみると、男性に比べ女性で「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、年齢が上がるにつれ「介護・看護に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、女性の 20 歳代で「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」と「育児・保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」の割合が高く、20～40 歳代で「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の 20 歳代と 70 歳以上で「研修の充実など能力向上のための環境を整備する」の割合が高く、40 歳以上で「女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする」の割合が高くなっています。他の年代に比べ、男性の 20 歳代で「家族がそれぞれの仕事について理解し協力する」の割合が低くなっています。

平成 13 年度調査結果と比較すると、「女性の産前・産後・整理休暇、育児・介護休業をとりやすくする」の割合が高くなっています。

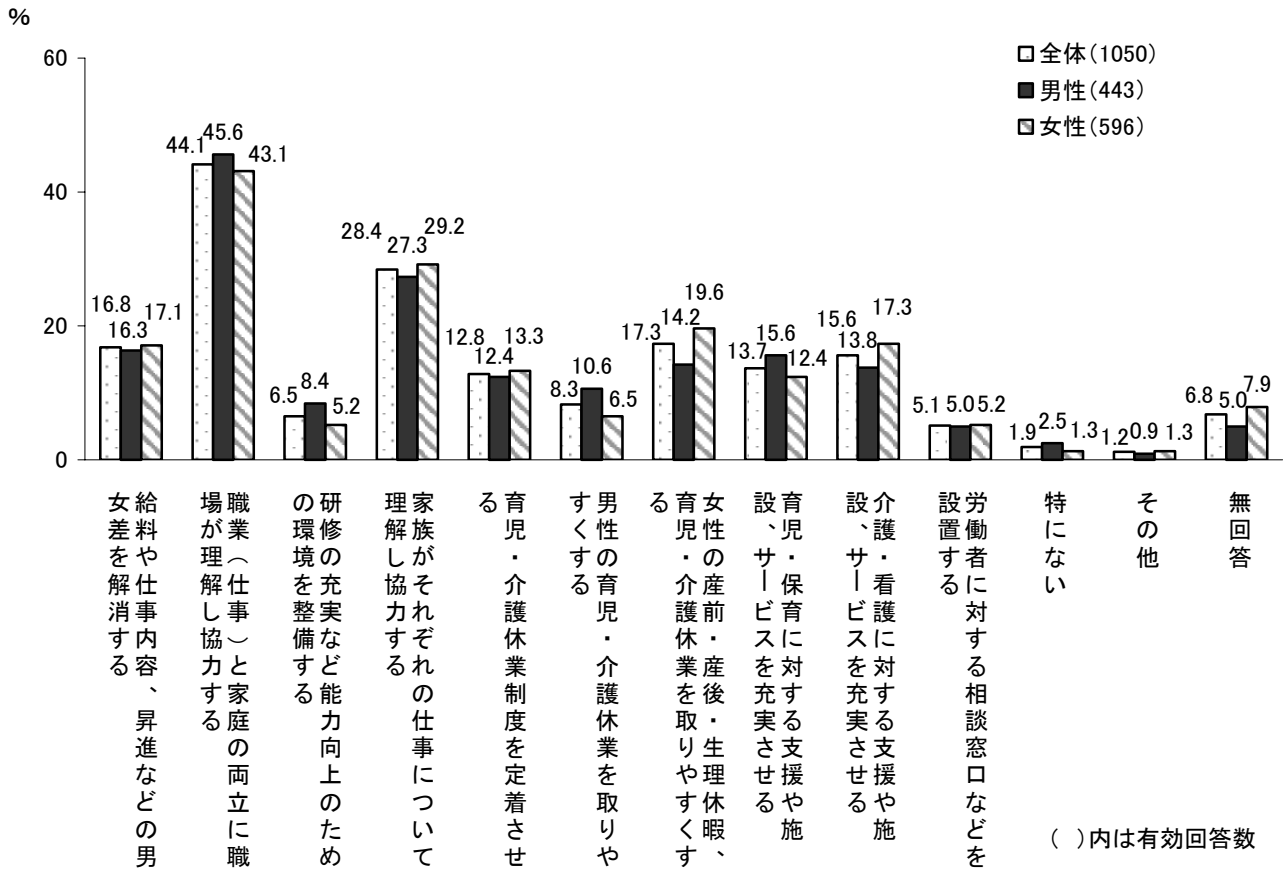
図表 62 男女別年齢別安心して働ける環境づくりに必要だと思うこと

単位：％

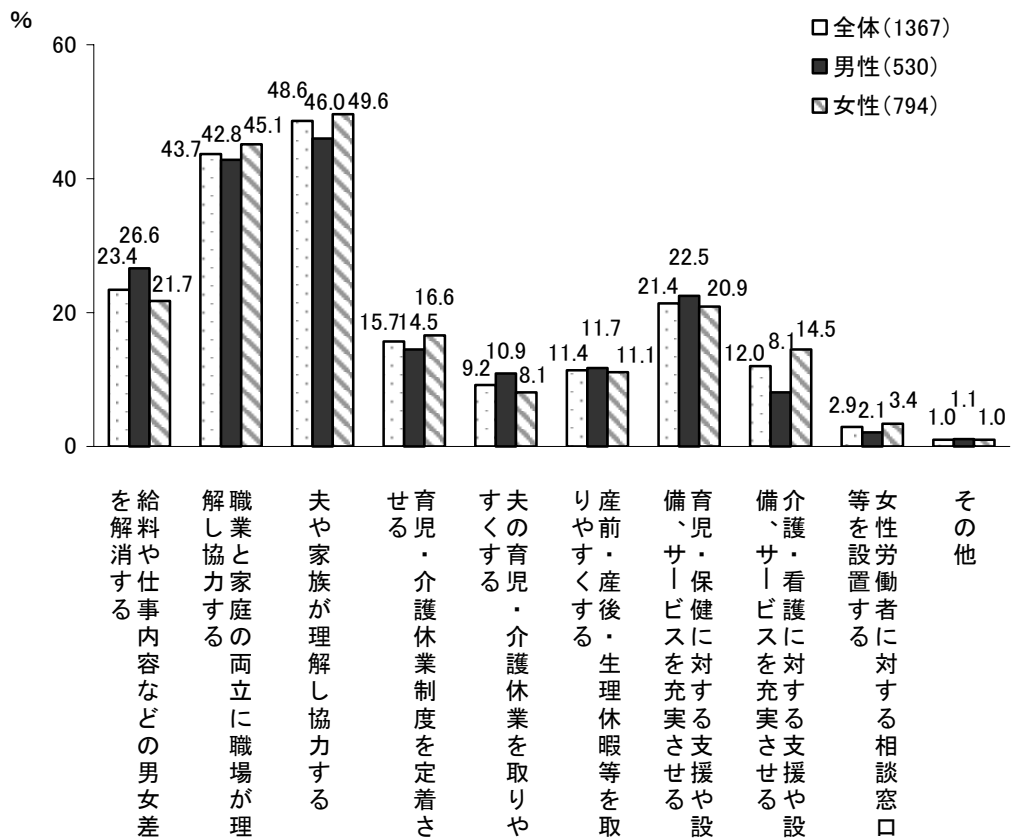
	有効回答数(件)	給料や仕事内容、昇進などの男女差を解消する	職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する	研修の充実など能力向上のための環境を整備する	家族がそれぞれの仕事について理解し協力する	育児・介護休業制度を定着させる	男性の育児・介護休業を取りやすくする
全体	1050	16.8	44.1	6.5	28.4	12.8	8.3
女性	596	17.1	43.1	5.2	29.2	13.3	6.5
20歳代	54	13.0	55.6	5.6	20.4	14.8	3.7
30歳代	106	21.7	52.8	5.7	29.2	10.4	9.4
40歳代	102	19.6	45.1	5.9	30.4	13.7	7.8
50歳代	91	17.6	37.4	4.4	22.0	17.6	8.8
60歳代	120	19.2	36.7	3.3	28.3	14.2	5.0
70歳以上	123	10.6	38.2	6.5	38.2	10.6	4.1
男性	442	16.1	45.7	8.4	27.4	12.4	10.4
20歳代	34	17.6	47.1	14.7	8.8	11.8	14.7
30歳代	70	12.9	48.6	2.9	30.0	11.4	17.1
40歳代	70	14.3	44.3	8.6	41.4	8.6	14.3
50歳代	102	21.6	44.1	3.9	24.5	10.8	10.8
60歳代	93	10.8	44.1	9.7	22.6	15.1	5.4
70歳以上	73	19.2	47.9	15.1	30.1	16.4	4.1

	女性の産前・産後・生理休暇、育児・介護休業を取りやすくする	育児・保育に対する支援や施設サービスの充実させる	介護・看護に対する支援や施設サービスの充実させる	労働者に対する相談窓口などを設置する	特になし	その他	無回答
全体	17.3	13.7	15.6	5.1	1.9	1.2	6.8
女性	19.6	12.4	17.3	5.2	1.3	1.3	7.9
20歳代	29.6	20.4	-	-	3.7	3.7	9.3
30歳代	22.6	15.1	6.6	4.7	-	1.9	6.6
40歳代	14.7	14.7	18.6	2.0	1.0	-	6.9
50歳代	19.8	9.9	20.9	6.6	-	1.1	11.0
60歳代	18.3	12.5	21.7	5.8	2.5	-	8.3
70歳以上	17.9	6.5	26.0	8.9	1.6	2.4	6.5
男性	14.3	15.6	13.8	5.0	2.5	0.9	5.0
20歳代	5.9	17.6	-	2.9	2.9	2.9	8.8
30歳代	8.6	22.9	2.9	5.7	5.7	2.9	4.3
40歳代	15.7	15.7	11.4	5.7	1.4	-	1.4
50歳代	15.7	17.6	17.6	1.0	2.0	-	6.9
60歳代	18.3	17.2	20.4	8.6	3.2	1.1	3.2
70歳以上	15.1	2.7	19.2	5.5	-	-	6.8

図表 63 男女別年齢別安心して働ける環境づくりに必要だと思うこと（平成 20 年度調査）



図表 64 男女別年齢別安心して働ける環境づくりに必要だと思うこと（平成 13 年度調査）



問 15 職場におけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ・性的いやがらせ）について次の中からあてはまるものを選んでください。（あてはまるものすべてに○）

「自分や周りには、経験した人がいない」の割合が最も高く 33.0%となっており、次いで「自分の職場では経験した人はいないと思う」の割合が 27.4%となっています。

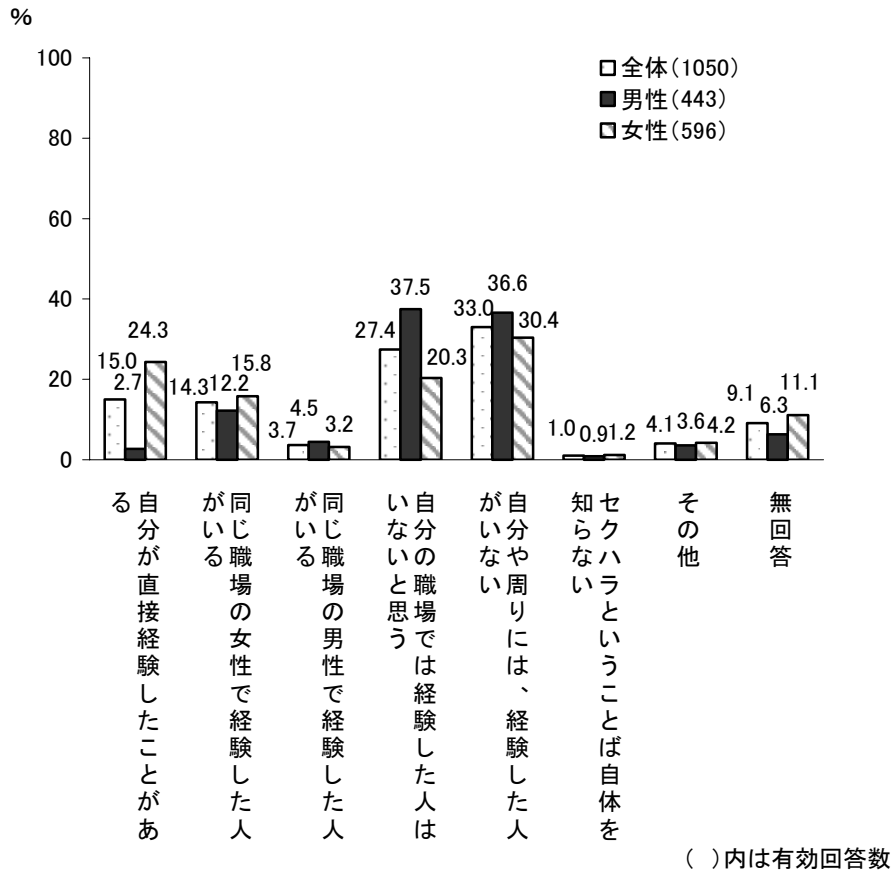
男女別でみると、男性に比べ女性で「自分が直接経験したことがある」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「自分の職場では経験した人はいないと思う」、「自分や周りには、経験した人がいない」の割合が高くなっています。

図表 65 男女別職場におけるセクシュアル・ハラスメントの状況

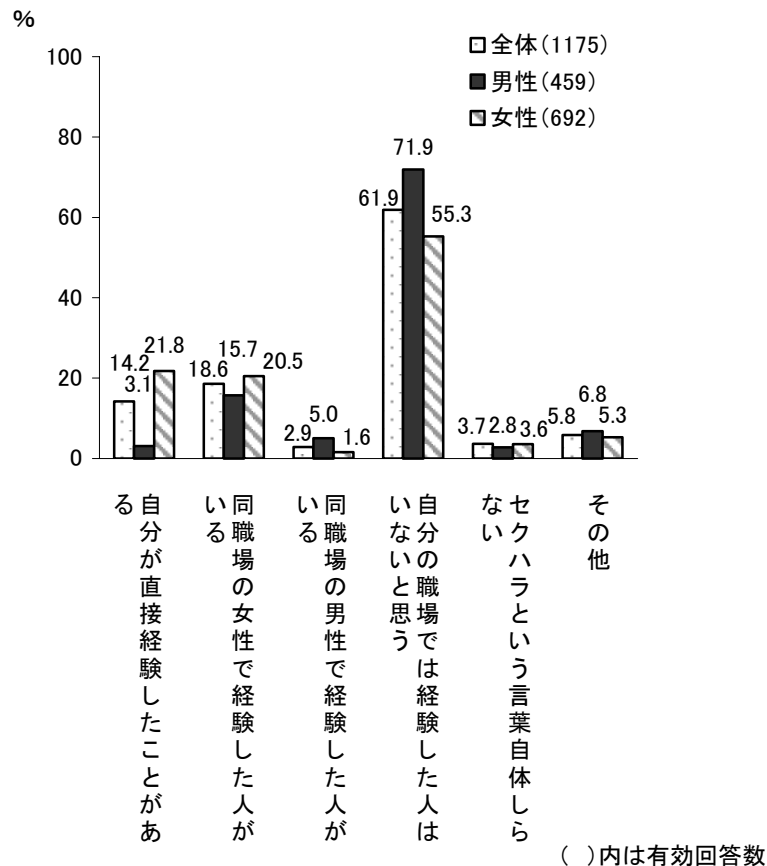
単位：%

	有効回答数(件)	自分が直接経験したことがある	同じ職場の女性で経験した人がいる	同じ職場の男性で経験した人がいる	自分の職場では経験した人はいないと思う	自分や周りには、経験した人がいない	セクハラということが自体を知らない	その他	無回答
全 体	1050	15.0	14.3	3.7	27.4	33.0	1.0	4.1	9.1
女性	596	24.3	15.8	3.2	20.3	30.4	1.2	4.2	11.1
男性	443	2.7	12.2	4.5	37.5	36.6	0.9	3.6	6.3

図表 66 男女別職場におけるセクシュアル・ハラスメントの状況（平成 20 年度調査）



図表 67 男女別職場におけるセクシュアル・ハラスメントの状況（平成 13 年度調査）

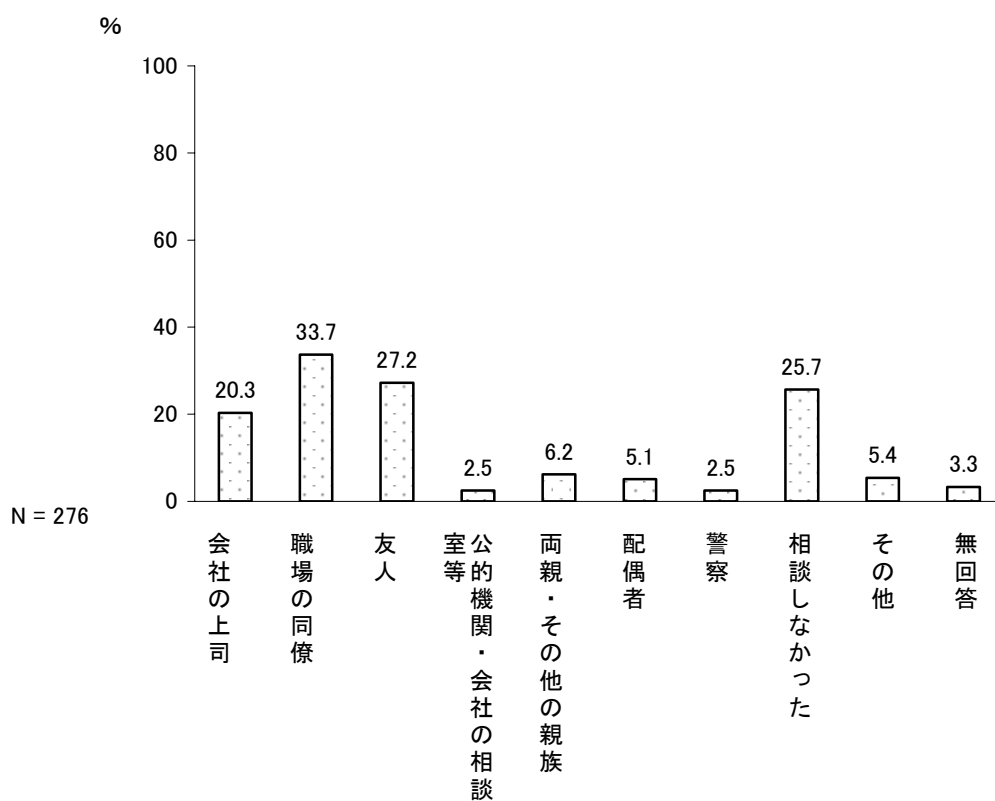


問 15 で「1.」～「3.」と答えた方

問 16 セクハラを自分が経験した、または身近に当事者がいた場合、誰かに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

「職場の同僚」の割合が最も高く 33.7%となっており、次いで「相談しなかった」の割合が 25.7%となっています。

図表 68 セクハラを被害の相談状況



問 17 あなたは、セクハラに、どのような対策が必要だと思いますか。(〇は2つまで)

「事業主が対策に取り組むこと」の割合が最も高く 37.0%となっており、次いで「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」の割合が 33.2%となっています。

男女別で見ると、性別による大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、他の年代に比べ、女性の 40 歳代以下で「事業主が対策に取り組むこと」の割合が高く、50 歳代で「相談機関を設置すること」の割合が高く、60 歳代以上で「一人ひとりが服装や態度に気をつける」、「一人ひとりが自分の行動に自覚をもつ」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の 30 歳代で「事業主が対策に取り組むこと」の割合が高く、40 歳代以上で「相談機関を設置すること」の割合が高くなっています。

平成 13 年度調査結果と比較すると、全体では、「事業主が対策に取り組むこと」、「相談機関を設置すること」の割合が高くなっています。

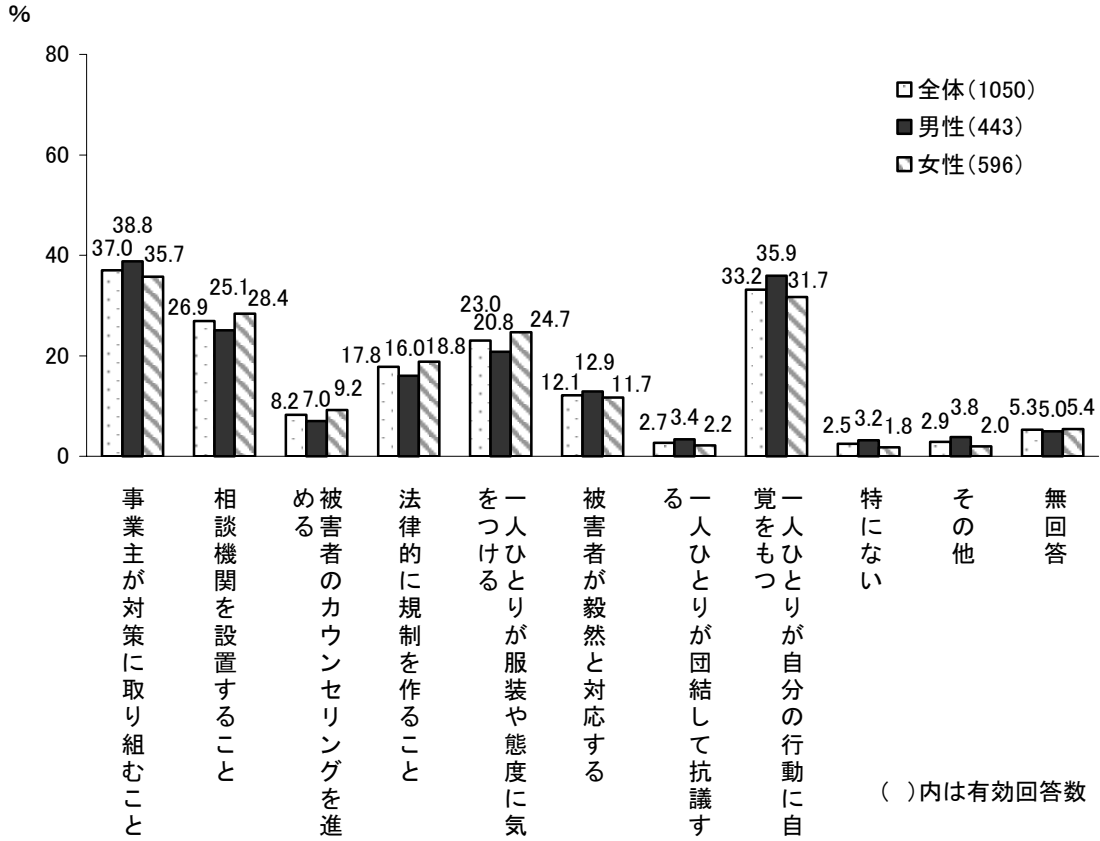
図表 69 男女別年齢別必要だと思うセクハラ対策

単位：%

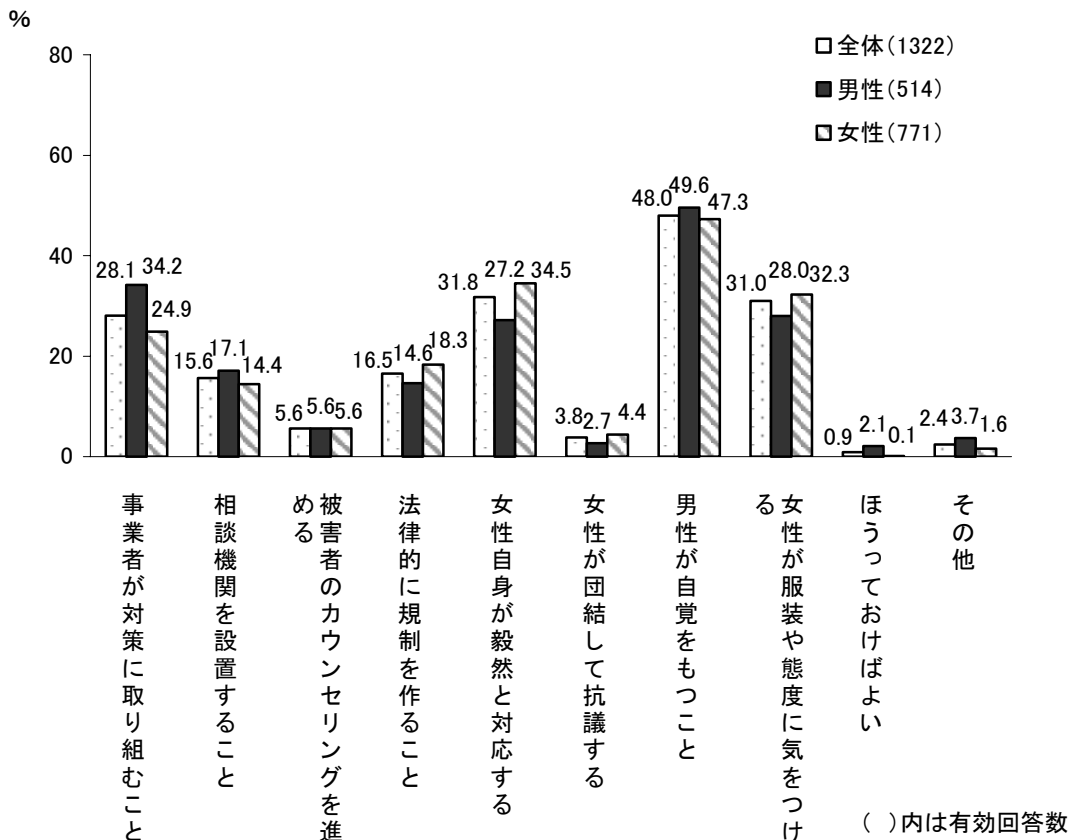
	有効回答数(件)	事業主が対策に 取り組むこと	相談機関を設置 すること	被害者のカウン セリングを進め る	法的に規制を 作ること	一人ひとりが服 装や態度に気を つける
全 体	1050	37.0	26.9	8.2	17.8	23.0
女性	596	35.7	28.4	9.2	18.8	24.7
20歳代	54	51.9	24.1	16.7	22.2	14.8
30歳代	106	49.1	29.2	15.1	27.4	15.1
40歳代	102	46.1	33.3	8.8	23.5	13.7
50歳代	91	31.9	40.7	12.1	14.3	15.4
60歳代	120	29.2	20.8	3.3	15.0	39.2
70歳以上	123	17.9	23.6	4.9	13.0	39.0
男性	442	38.7	25.1	7.0	16.1	20.8
20歳代	34	41.2	17.6	5.9	20.6	11.8
30歳代	70	50.0	21.4	2.9	20.0	18.6
40歳代	70	37.1	30.0	5.7	15.7	20.0
50歳代	102	41.2	32.4	10.8	12.7	16.7
60歳代	93	38.7	30.1	9.7	16.1	21.5
70歳以上	73	24.7	11.0	4.1	15.1	32.9

	被害者が毅然と 対応する	一人ひとりが団 結して抗議する	一人ひとりが自 分の行動に自覚 をもつ	特 に ない	そ の 他	無 回 答
全 体	12.1	2.7	33.2	2.5	2.9	5.3
女性	11.7	2.2	31.7	1.8	2.0	5.4
20歳代	7.4	1.9	24.1	3.7	3.7	1.9
30歳代	9.4	-	23.6	0.9	3.8	-
40歳代	10.8	2.9	26.5	-	3.9	1.0
50歳代	12.1	1.1	25.3	3.3	2.2	8.8
60歳代	9.2	1.7	38.3	2.5	-	10.8
70歳以上	18.7	4.9	44.7	1.6	-	7.3
男性	12.9	3.4	35.7	3.2	3.8	5.0
20歳代	11.8	2.9	47.1	2.9	8.8	-
30歳代	4.3	1.4	42.9	-	7.1	1.4
40歳代	14.3	7.1	31.4	2.9	4.3	5.7
50歳代	10.8	2.0	32.4	2.9	4.9	4.9
60歳代	11.8	1.1	37.6	5.4	-	2.2
70歳以上	24.7	6.8	30.1	4.1	1.4	13.7

図表 70 男女別必要だと思うセクハラ対策（平成 20 年度調査）



図表 71 男女別必要だと思うセクハラ対策（平成 13 年度調査）



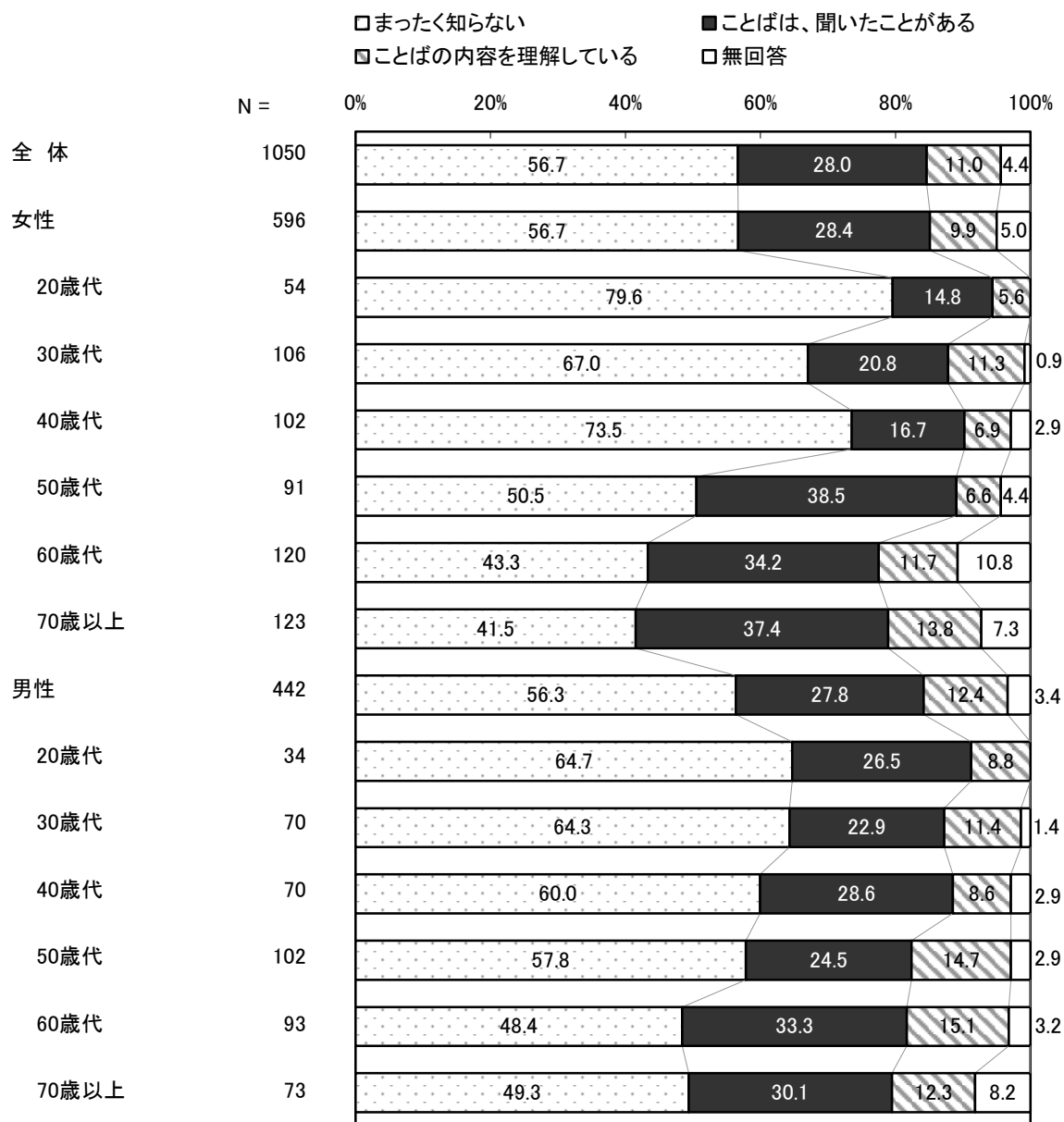
問 18 あなたは、【ワーク・ライフ・バランス】について、知っていますか。
(〇は1つ)

「まったく知らない」の割合が最も高く 56.7%となっており、次いで「ことばは、聞いたことがある」の割合が 28.0%となっています。

男女別で見ると、性別による大きな差異はみられません。

年齢別で見ると、他の年代に比べ、女性の 40 歳代以下で「まったく知らない」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ、男性の 50 歳代以下で「まったく知らない」の割合が高くなっています。

図表 72 男女別年齢別ワーク・ライフ・バランスの認知状況



問 19 生活の中での、仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度について、あなたの【希望】の優先度と、【現実】としての優先度をお答えください。
 （【希望】と【現実】それぞれに1つ〇）

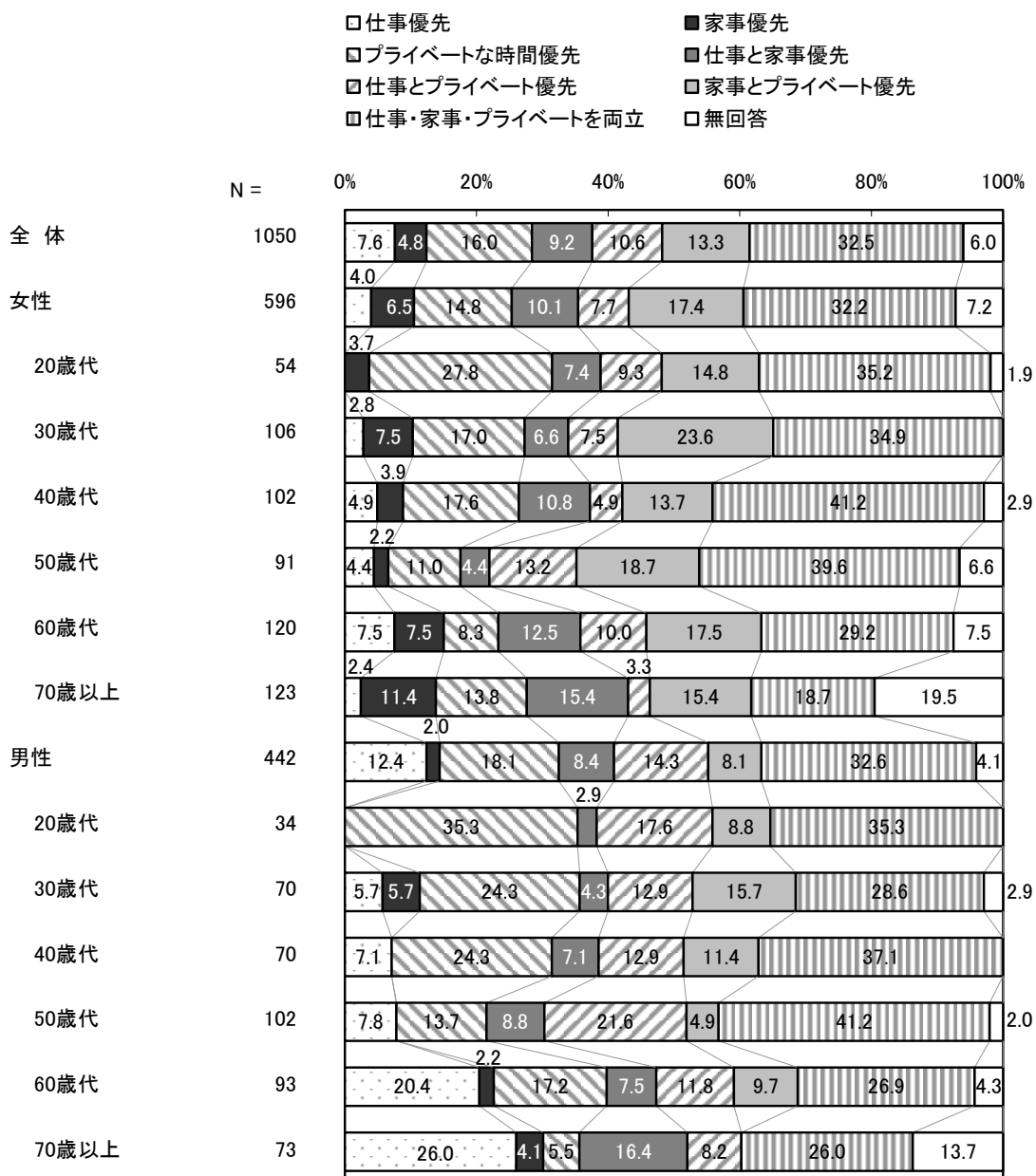
【希望】

「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が最も高く 32.5%となっており、次いで「プライベートな時間優先」の割合が 16.0%となっています。

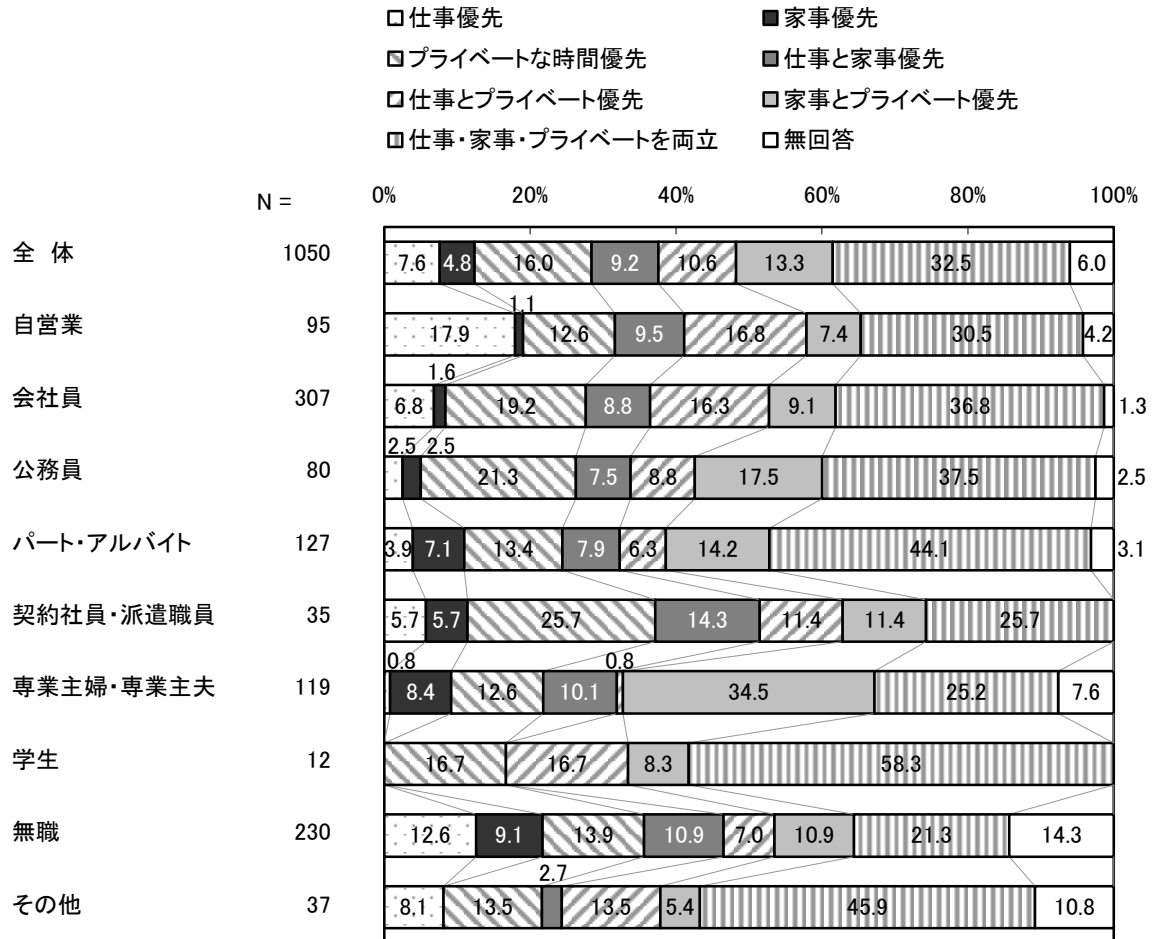
男女別でみると、男性に比べ女性で「家事とプライベート優先」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事優先」、「仕事とプライベート優先」の割合が高くなっています。

職業別でみると、他の職業に比べ自営業で「仕事優先」の割合が高く、専業主婦、専業主夫で「家事とプライベート優先」の割合が高く、パート・アルバイト、学生で「仕事・家事・プライベートを両立」の割合が高くなっています。

図表 73 男女別年齢別希望の仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度



図表 74 職業別希望の仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度



【現実】

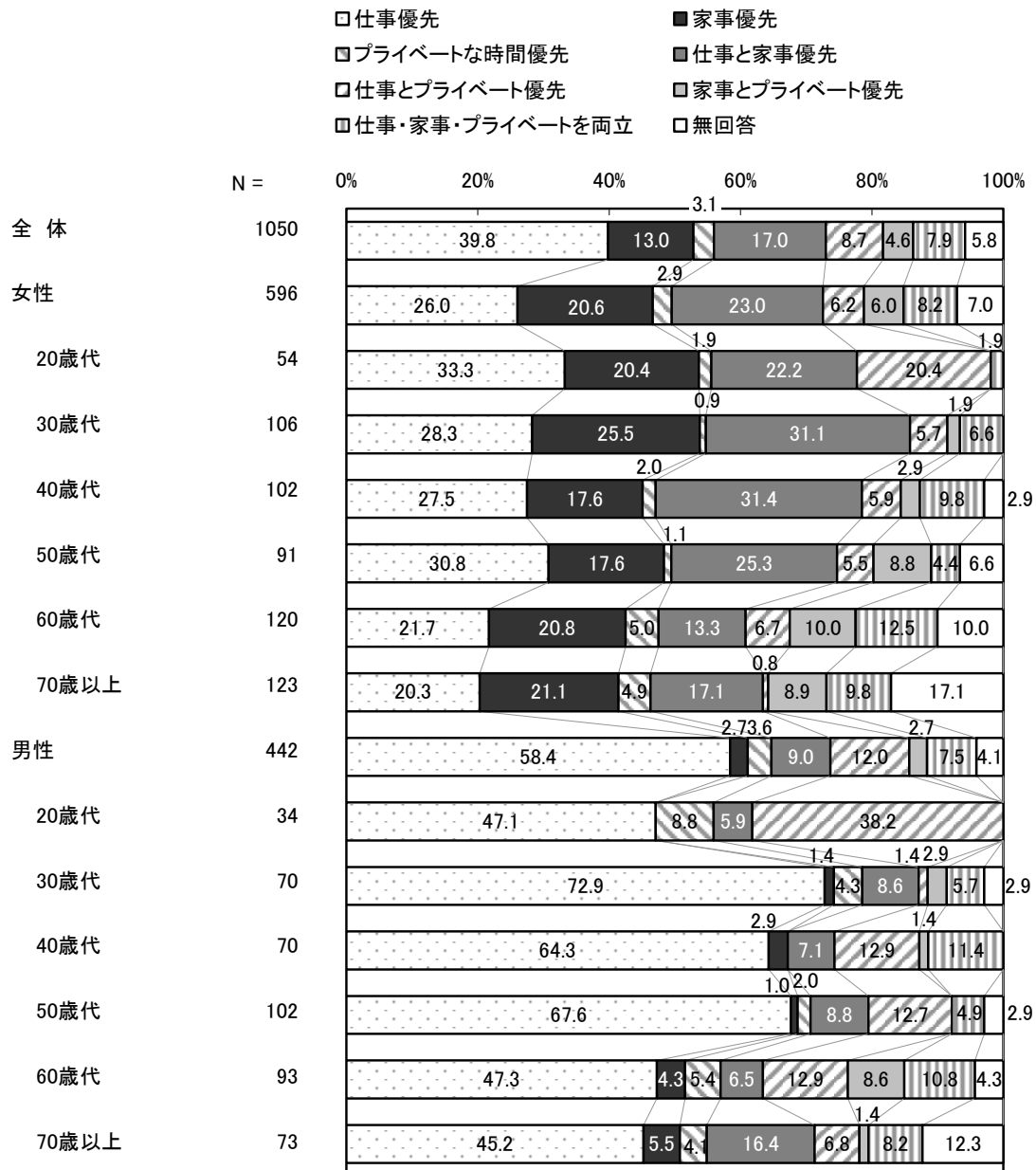
「仕事優先」の割合が最も高く 39.8%となっており、次いで「仕事と家事優先」の割合が 17.0% となっています。

男女別でみると、男性に比べ女性で「家事優先」、「仕事と家事優先」の割合が高くなっています。また、女性に比べ男性で「仕事優先」の割合が高くなっています。

年齢別でみると、他の年代に比べ女性の 30 歳代、40 歳代で「仕事と家事優先」の割合が高く、20 歳代で「仕事とプライベート優先」の割合が高くなっています。また、他の年代に比べ男性の 30 歳代から 50 歳代で「仕事優先」の割合が高く、20 歳代で「仕事とプライベート優先」の割合が高くなっています。

職業別でみると、他の職業に比べ自営業、会社員、公務員で「仕事優先」の割合が高く、専業主婦、専業主夫で「家事とプライベート優先」の割合が高く、パート・アルバイト、契約社員・派遣職員で「仕事と家事優先」の割合が高くなっています。

図表 75 男女別年齢別現実の仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度



図表 76 職業別現実の仕事・家事（育児）・プライベートな時間（趣味など）の優先度

